

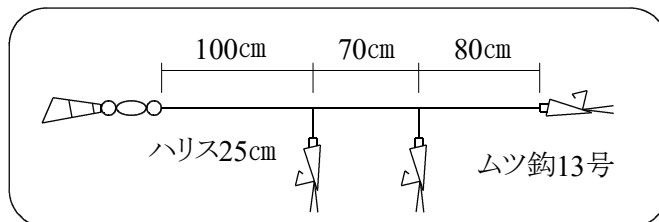
2022年6月5日(日) 国崎 イサキ釣り 宏漁丸 ツレと
小潮:旧5/7 干潮02:49(115cm) 満潮08:14(169cm) 干潮15:26(46cm) 鳥羽
イサキ ~33cm (良型が多かった。) 私 10尾 ツレ 10尾

5時00分 出船
08時14分 満潮(169cm) 鳥羽
11時10分 納竿 沖上がり
帰宅後、魚処理2時間



【料金】 乗り合い 10,000円 コマセ(アミエビ)、氷付き 釣り座は抽選
差し餌を船上にて購入 (オキアミL) ¥500
高速 土日祝日割り

【仕掛け】 天秤吹き流し
仕掛け 船上にて購入
オーロラ緑スキン3本鉤 ムツ鉤13号
幹糸3号 ハリス3号 全長2.5m
2セット組
船上にて購入 ¥500×2個



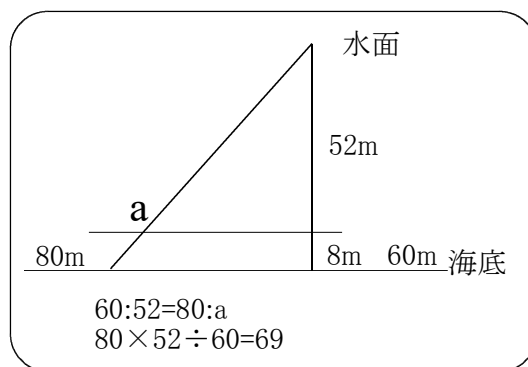
電動リール 竿受け おもり 80・100・120号 (上げ潮まで100号、下げ潮から120号)
天秤(大型) コマセカゴ(中型:アミエビ用) クッションゴム 直径1.5mm 長さ50cm
※魚を絞めるためゴム手袋、ナイフ
※コマセカゴにアミエビをいれるレンゲは備え付けてある。

【様子】

- 天気予報を見て3日前に予約した。功成丸が一杯だったので、宏漁丸に予約した。
- 宏漁丸は私たちを入れて4人だったが、日にちを間違えたらしく、結局、私たちだけで行くことになった。
- 天気予報どおり、終日曇り、風もなかったし、波もなかった。しかし、乗船したときは少しくねっており、気分が悪くなるのではないかと心配した。うねりはだんだんと収まっていった。
- 乗船の1時間前に酔い止めを飲んでおいた。
- 釣り座は船長の指示により、左舷後ろ寄りに二人並んで座った。
- 船を移動させたり、錨をかけ直したりするたびに、「水深〇m」、「棚は底から〇m〜〇m」とアナウンスがある。(今日は、底から8m〜10mだった。)
- おもりは100号と指示があった。潮が変わってからは120号だった。
- 潮止まりまで(上げ潮の間)は、潮の流れが緩く、釣りやすかった。
- 「おもり100号、水深50m、底から8m〜10m」でスタートした。
- 仕掛けは少し斜めに入っていく。水深42mより少し深めと考え、「水深45まで落とし、仕掛けがなじんだら、2回シャクリ、1m〜1.5m巻き上げて待つ。当たりがなければ、2回シャクリ、1m〜1.5m巻き上げて待つ。

つを繰り返した。」

- 水深42m～40mで当たってくる。イサキがいれば、すぐに当たってくるという感じだった。
- 潮止まりとなった。潮が止まっているときは、仕掛けを動かした方がいいと考え、水深45mから電動でゆっくり巻き上げることにした。(スピード5～7。これ以上ゆっくりにすると、モーターが止まってしまうというスピードである。)
- 水深45mから巻き上げた。水深42mで当たりがあった。
- 船が移動した。「水深60m、棚は底から8m～10m」とアナウンスがあった。
- 潮が動いている。仕掛けが斜めに入っていく。仕掛けを底まで落としたら80mだった。棚が分からない。水深が60m、仕掛けは80mまで出る。
- 棚が分からない。三角形の相似から、ラインを出す長さ(a)を計算した。62mだった。(計算ミスをした。正しくは69m。) 65mまで落として、電動巻きを試みた。すると、62mで当たりがあった。
- 水深65mから60mまでを巻き上げた。ときどき竿を少しあおって、コマセを撒いた。水深62m、60mで当たりがあった。
- 65m～60m巻き上げて当たりがなかったときに、もう一度、65mまで落として巻き上げた。2回目の巻き上げで当たりがあった。この釣り方では、コマセが一度に出ていくということはないのであろう。
- ツレがお祭りしたとのことで、助けを求めてきた。水深63mで止めて置き竿にした。これに当たりがあった。棚が分かっているなら、そこで待つということも重要ということだ。
- 船が移動となり、「水深65m、底から8m～10mをねらってください。」とアナウンスがあった。スタートする深さを変えて、いろいろ試みるが、当たらない。60mまで巻き上げて当たりがなかったため、底まで落としてみた。98mだった。コマセを入れ直して、もう一度、試したら80mだった。直接落とすと80m、仕掛けを60mまで巻き上げてから落とすと98m。仕掛けを電動でゆっくりと巻き上げている間に、仕掛けが潮に流されて、ことのほか、浮いてくるということだ。
- 改めて、仕掛けを落とす深さを計算しようとしているときに、船長から納竿の合図があった。
- 潮が大きいときは電動リールによる巻き上げは1回きりとして、棚を探すということになる。



【釣り方】 指示棚(釣れた棚)から2m下から上2mまでを誘っていく。

方法1 仕掛けを落とす。仕掛けがなじんだら、竿を大きく2回振り上げ、リールを2回巻く。”当たりがなければ、竿を大きく2回振り上げ、リールを2回巻く”を繰り返す。

方法2 ゆっくり電動で巻き上げていく。時々、竿を小さく振って、コマセを撒く。

※棚が分からないときにも有効である。

【餌をつけるか】

○「餌が一番下の鉤に付ける。上にも付けると、仕掛けがぐるぐる回って釣れない。」と船長は言う。(以前の記録より)

○サビキ仕掛けなら付け餌はいらないか。素鉤にしてオキアミをつけるか、ワームをつけるか。要検討である。